

月刊

地域保健

9
2011

●特集

被災者の心を支える



●FRONT RUNNER

三朝町健康福祉課課長 地域包括支援センター長
前田敦子さん

●PEOPLE

NPO法人ニュースタート事務局理事
二神能基さん

前田敦子
さん

● 三朝町健康福祉課課長・地域包括支援センター長



前を向いてチャレンジするのが「三朝スタイル」です。

時代の変化に強い町づくりを实践

鳥取県東伯郡三朝町

「みなさーん、熱中症の予防ではどんな工夫をされていますか」

公民館に張りのある声が響いた。声の主はラジウム温泉で有名な三朝町の保健師、前田敦子さん。テーブルを囲んで話を聞いているのは健康相談のボランティアアグループ・アロエの会のメンバーたちだ。今日は七夕の夕食会のピラ配りと、熱中症対策の打ち合わせで集まった。

「扇風機をつける」

「うちわであおぐ」

「明るいうちは窓全開にする」

「こっちは夜中も窓全開だよ」

前田さんの問いかけに、わいわいがやがや。話を呼び次々と自己流の対策が述べられていく。

「全国的には熱中症で亡くなられた方が出始めています。暑さを感じないこともあるので必ず室温計を見てくださいね」

なかなかやまないおしゃべりの輪に



アロエの会の打ち合わせ。皆さん、とってもおしゃべり！



「これはどうすれば？」。何かと頼られる前田さん

前田さんが言葉投げ入れると、皆が静かに聞き入った。

素直な町民性

「前田敦子」という名は今をときめく人気アイドルと同名同名。健康福祉課課長、地域包括支援センター長という

肩書のいかめしきとは裏腹に、そこにいるだけで周りをパツツと明るくするオーラがあるのはタレントのイメージと重なる。

三朝町の出身。鳥取県立倉吉総合看護専門学校で保健師・助産婦課程を卒業した昭和54年に三朝町役場に就職した。

やっぱり地元がいい!

ゆったりマイペースだけど
着実に経験を重ねる池田っ子

真鍋舞子さん

●三好市保健センター健康づくり課



◀休日でも積極的に保健師勉強会に参加するなど、向上心はとも強い



◎取材・文・写真
西内義雄
(医療・保健ジャーナリスト)

2006年、三野町、池田町、山城町、井川町、西祖谷山村、東祖谷山村が合併してできたのが今回の訪問地、三好市だ。6つの自治体が合わさったことで、四国でもっとも広い面積となり、大歩危峽や祖谷のかずら橋などの観光名所でも知られている。

ひよこさんは真鍋舞子さん。生まれも育ちも旧池田町の24歳。話し始めてすぐに伝わってきたのは、言葉の端々に感じられる地元愛だった。池田小学校、池田中学校、池田高校と地元由学校に通うのが当たり前の地域という理由だけでは語れない、郷土への強い愛情があることも感じた。

将来の夢は たくさんあった

子どものころの真鍋さんは小説家やピアノの先生に憧れていた。「高校生になるまで医療関係に興味はなかったです。親から大学に行くなら

資格の取れるところに行くほうがいいよとアドバイスされていたくらいです」

周囲を山に囲まれ、町の中心には吉野川がゆったりと流れている。豊かな自然があるこの地域で毎日楽しく過ごしていたようだ。とはいえ地元しか知らない子どもだったわけじゃない。小学3年には家族旅行でハワイ、中学3年の夏休みに町が姉妹都市を結んでいたアメリカ、オレゴン州のザ・ダルズ市で1週間ほどのホームステイを体験している。

「交流が始まった最初の年でした。募集があつて親もぜひチャレンジしてみなさいと勧めてくれたので作文や面接を受け、メンバーに選ばれて行きました」

初めて親と離れての旅行。それもいきなりアメリカ本土。言葉など分かるはずもないと思いつつも、現地のホストファミリーの家に泊まった。そこで

学んだのは、見知らぬ人でもすぐに仲良くなり、近くの公園に行けばいつでも遊び相手がいた開放的な雰囲気。その体験が心に残り、英語の先生に憧れを持ちながら地元の池田高校へと進学した。



▲楽しい思い出の詰まった母校の県立池田高校

特集

被災者の心を支える

PTSDへの対処と自殺予防を中心に



大震災から約半年。季節はめぐり秋の気配が迫りつつあるというのに被災地の復旧・復興は遅れたままだ。人、家、仕事の喪失に加え、今もって生活の展望が開けない被災者たちの苦しみは想像するに余りある。こうした厳しい状況の中、心の健康ではPTSD（心的外傷後ストレス障害）が課題として取り組まれているが、今後はうつや自殺の増加も懸念されている。今月の特集では、被災者の心の問題としてPTSDと自殺予防に焦点を当てる。さらに、支援者である保健師自身の心が折れないために、考えられる方策を探った。

P18 PTSDを長期化させないために

● interview

◎小西聖子先生（武蔵野大学） 聞き手 編集部

P26 震災後の自殺を防ぐ

「気づき」「つながる」体制の整備を

◎本橋 豊（秋田大学）

P32 久慈市における被災者の心のケア

避難所運営から自殺対策まで

◎取材・文 西内義雄（医療・保健ジャーナリスト）

P40 保健師の頑張りを支えるために

相手の「思い」を理解した、支える支援を

● interview

◎大塚耕太郎先生（岩手医科大学）

聞き手 西内義雄（医療・保健ジャーナリスト）